# 天文学とプラネタリウム

第136回

www.tenpla.net

宇宙図エコバッグが新しくなりました！

今月のお題

## 宇宙と生き物

子供に人気の古生物と宇宙。魅力的な古生物展示やグッズの手法から天文学は何を学べるのでしょうか。

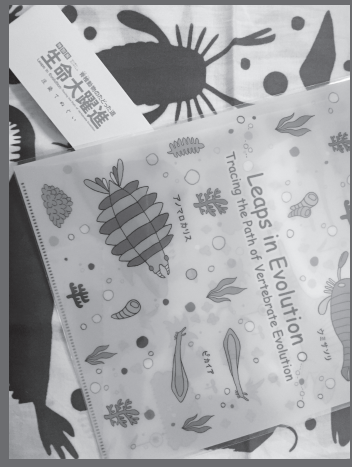
高梨直紘（東京大学）
平松正顕（国立天文台チリ観測所）

夏になると必ずどこかで開催される古生物展、どこも大盛況のようです。私も子供のころに「恐竜博」に連れて行ってもらった覚えがあります。そこで学校が夏休みに入る前に、国立科学博物館で現在開催中の「生命大躍進」展に行ってみました。脊椎動物の進化をテーマとしたこの企画展には、先カンブリア紀やカンブリア紀の奇妙な生物群や定番の恐竜たち、そして哺乳類から人類に至るまでの化石や模型が数多く展示されていました。夏休み前とはいえ子どもたちから若者、年配の方、海外の方まで、多くの来場者で会場は結構な混雑。そして「やっぱり生き物はずるいなぁ」と感嘆が漏れる素晴らしい展示でした。

展示を一通り見終わって特設のミュージアムショップへ。展示に登場していたいろいろな古代生物がかわいらしくデフォルメされ、ぬいぐるみや手ぬぐい、文具などにあしらわれていて、こちらも大人気。わりとグロテスクなバージェス動物群の動物までかわいいのです。さらにデフォルメされた生物を集めていくスマホゲームアプリ「コダモン」まで。うーん、ずるい。天文界のスターであるブラックホールやビッグバンをデフォルメしたとして、ここまでかわいくまとめられるかどうか。難しいかもしれません。

NHK スペシャルとして放送されている「生命大躍進」は、遺伝子に起きる突然変異をテーマに、目の獲得や「母性」「知性」の起源を紐解くという構成でした。やはりそこには生き物の物語があり、私たち現生人類に直接つながるキーワードが自然に埋め込まれているのです。ビッグバンですべての物質のもとが生まれ、原始星周囲のガスと塵の円盤から地球が生まれたとしても、生き物の話ほどの「身近さ」あるいは「私につながっている感じ」を得るのはやはり難しいかもしれません。やはり生き物はずるい。

というような話を以前生物学の研究者にしたら、「いやいや天文のほうがずるい」という反応が返ってきたことがあります。曰く「道端で星空観望会をやっているのは魅力的だけど、顕微鏡観察会ではあまり人が集まらないだろう？」「生き物は気持ち悪いという人がいるが、星が気持ち悪いという人は聞いたことがない」と。なるほど、単に隣の芝生が青く見えていただけなのでしょう。ここはいっそのことお互いの「ずるい」ところを見習いあって、街角顕微鏡観察会を企画したりブラックホールのデフォルメに挑戦したりしてみるのがいいのかもしれません。




生命大躍進展のグッズ。古生物のシルエットがあしらわれた手ぬぐいと、カンブリア紀の動物がかわいくデフォルメされたクリアファイル。

136

136